

総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 原子力小委員会 地層処分技術ワーキンググループ（第7回）- 議事要旨

日時：平成26年3月20日（木曜日）14時00分～16時00分

場所：経済産業省別館3階第312各省庁共用会議室

出席者

ワーキンググループ委員

枋山委員長、宇都委員、遠藤委員、長田委員、田所委員、徳永委員、丸井委員、山崎委員、吉田委員、渡部委員

経済産業省

高橋電力・ガス事業部長、伊藤放射性廃棄物等対策室長

説明者

武田原子力発電環境整備機構理事、梅木日本原子力研究開発機構地層処分部門長

議題

1. 地質環境の長期安定性の確認事項
2. 最新の科学的知見に基づく地層処分技術の再評価－地質環境特性および地質環境の長期安定性について－

議事要旨

武田原子力環境整備機構理事から資料1について説明

枋山委員長から資料2について説明

委員からの御意見

全体的内容について異論はないが、現状の取りまとめ案の文章では、好ましい条件が揃っている地質環境を有する地域の中でサイト選定を進めていくとの誤解を招く恐れがある。好ましい条件については、本WGでの審議の過程として、サイト選定において回避する必要がある著しい影響を与える天然現象を抽出するための前提として取り扱ったことを示すべき。

審議の内容を適切にまとめたものであると判断される。地層処分の安全性について、段階的なアプローチにより判断していくことが示されている点は特に重要である。一方で、審議の結果のNUMOの見解を示している部分とWGとしての評価を示している部分が判別しづらいため、両者の区分が分かるように明記すべき。

2章の2.1に「地層処分の安全概念」との表現があるが、安全という言葉にはリスクの大きさと社会的許容が含まれる。ここでは地層処分の概念を示しているにすぎないため、表現は変更すべき。

2章の2.4に「処分地としての適不適を判断する基準」と記載されているが、基準という言葉は基準値との誤解を与える。今回の審議では、必ずしも基準値を示しているわけではないため、他の用語に変更すべき。

3章の3.2に記載されている水理場について、「場の均一性が高いことから地下水の流れが緩慢である」との表現があるが、場の均一性と緩慢な地下水の流れとは直接的に関係がない。緩慢な地下水の流れは、低い透水性と低い動水勾配から導かれるため、そのような記載に変更すべき。なお、地下水の流れが緩慢であることについては、幌延や瑞浪の深地層の研究施設において多くのデータが取られており、地下深部ほど地下水の流れが緩慢であることが示されている。

4章の4.4に「処分深度に達する断層」という記載があるが、これは断層が地表から処分深度まで延びているとの誤解を招く必要がある。断層は地下深部から地表へ向けて延びているため、地下深部から処分深度に達する断層と記載することが適切である。

隆起・侵食の考え方については、最新の科学的知見に基づき、海水準変動の影響を考慮した最大侵食量の考え方などの確に整理されていると考えられる。

6章の今後の地層処分事業としての取り組みについては、現状版のような羅列ではどの段階で適用する技術なのか不明確なため、広域がある程度地域が限定された概要調査以降のものなのかを分けて記載することで、より分かりやすくなると思われる。

枋山委員長

頂いたご意見を基に修正し、委員各位の確認の後に、パブリックコメントを行う。

事務局（伊藤放射性廃棄物等対策室長）

次回は、パブリックコメントの後に行う。

以上

文責：事務局（資源エネルギー庁放射性廃棄物対策課）

関連リンク

総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 原子力小委員会 地層処分技術ワーキンググループの開催状況

動画1（YouTubeへリンクします） 

動画2（YouTubeへリンクします） 

お問合せ先

資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 放射性廃棄物対策課

最終更新日：2014年3月28日